

現職養護教諭から学校保健委員会運営を学ぶ意義：

養護教諭特別別科生の学習成果からの検討

The significance of learning about school health committee management
from an incumbent *Yogo* teacher:

Study based on learning results of One-Year Special Course
for *Yogo* Teachers

河田史宝

KAWATA Hitomi

Keyword：学校保健委員会、現職養護教諭、学習成果、養護教諭特別別科

I. はじめに

子どもたちの健康問題が複雑化、多様化する中、子どもたちが自分の生活をよりよく改善し、健康な生活を送るための資質や能力を高めるためには、家庭や地域社会が連携した学校保健委員会の機能を生かし活性化を図ることが大切である。学校において学校保健委員会は、学校における健康問題を協議し、家庭や地域社会と連携して健康づくりを推進する組織となっている。

学校保健委員会は、昭和33年6月の文部省体育局長通達により実施すべきものと示された¹⁾。その後、平成9年には地域学校保健委員会の設置の促進が必要であることが述べられた²⁾。平成20年には、「学校、家庭、地域の関係機関などの連携による効果的な学校保健活動を展開することが可能となることから、その活性化を図っていくことが必要である」と、学校保健委員会の設置の推進や質の向上を図っていく必要があることも示された³⁾。

このような歴史の中で、学校、家庭及び地域社会の密接な連携を図り、児童生徒の心身の健康の保持増進のために重要な役割を持つ「学校保健委員会の活性化」に焦点を当てて作成された、「学校保健委員会マニュアル」⁴⁾も発刊された。学校保健委員会の役割や学校保健委員会の進め方、これから開催しようと

する学校のために書かれた項目や地域学校保健委員会開催のすすめなども掲載されている。

平成26年度に行った調査では、学校保健委員会を「設置していた」と答えた学校は全体の91.4%で校種別に見ると小学校91.6%、中学校88.8%、高等学校91.5%、中等教育学校100%、特別支援学校94.1%であった⁵⁾。このうち設置していなかった学校にその理由を聞くと「時間がとれなかった」の回答が最も多く40~50%を占めていた現状がある。

このように多くの学校において設置されている学校保健委員会の推進にあたって、養護教諭も多く関与しており、学生が着任当初に新任養護教諭として担うこともある。

養護教諭は、学校保健活動の推進に当たって中核的な役割を果たしており、現代的な健康課題の解決に向けて重要な責務を担っている。その職務は、学校教育法により「児童生徒の養護をつかさどる」と定められており、救急処置、健康診断、疾病予防などの保健管理、保健教育、健康相談、保健室経営、保健組織活動などを行っている³⁾。また、学校によっては保健主事を兼務したり、兼務発令を受けて保健学習を担当したり、さらには学校外の保健関係機関との連絡調整をするなど、その職務は広がりつつある。これらの内容については、講義の中で学ぶことが多いが、学

校保健委員会の実際については学ぶことが少ない。学校保健委員会は、保健組織活動として重要な位置を占めており、健康課題解決に向けても重要な位置づけとなっている。しかしながら、医中誌等での検索において各学校における実施内容は掲載されているが、大学の講義内容として検討されたものはあがってこなかった。

これらのことから、現職養護教諭から学校保健委員会の実際について学ぶ時間を設定し、その講義後の学生の自由記述からその意義を検討することとした。

II. 研究方法

1. 調査対象

調査対象は、A大学養護教諭特別別科の学生で、本講義当日に出席した学生12名を対象とした。

2. 調査方法

講義は、「保健室経営と組織活動（選択）」の1時間（90分）の中で、11月5日に講義を行い、調査用紙は講義実施後にWeb Class^{注2)}により提出を行った。

3. 調査内容

「学校保健委員会の運営、企画について、活用していきたいことを記載してください」の問いに対して自由記述による記述を求めた。

4. 分析方法

自由記述の分析は、データ要約のため、樋口⁶⁾の作成したKH Coder (Ver. 3)⁷⁾を用いて分析をした。

学生の記入した自由記述をテキストファイル (Excel) の1行に1件ずつ入力した。その後、入力ミスや不自然な表現、表記の異なる同義語について、内容を変えることなく編集を行った。編集後にKH Coder (Ver. 3)を使用し、テキストから自動的に語を取り出

し、総抽出語数（分析対象ファイルに含まれているすべての語の延べ数）、異なり語数（何種類の語が含まれていたかを示す数）、頻出語を確認した上で、それらの語の共起関係を探った。最後に視覚化された語の共起ネットワーク図から文章全体を把握し考察した。

5. 倫理的配慮

学生には、調査目的、調査協力への任意性と協力しないことによる不利益は被らないこと、データの目的外使用をすることはなく、研究終了後のデータの破棄、プライバシーの保護、研究発表の際の匿名性の担保を質問紙に記載するとともに口頭により説明し、回答をもって同意を得たものとみなした。匿名性を担保するために、回答はID番号を振り、分析を行った。

III. 講義の概要

1. 講義日時

2019年11月5日（火）3限

2. 講師

講師は、小学校、中学校の勤務経験を持ち、いずれの学校においても学校保健委員会に積極的に取り組んでいる現職養護教諭に依頼し、講義を行った。

3. 本講義の流れ

本講義の大まかな流れを、表1に示した。

本講義の前の回に「学校保健委員会」に関する法律等について概説した。また、本講義の次の回では、仮想学校の設定により学校保健委員会の運営を3グループに分かれて計画を立案した。

表1 学校保健委員会の講義内容

①自己紹介
②「何のためにするの？学校保健委員会」(パワーポイント)を使用 1) 学校保健委員会はこんな会議です 驚き①朝ごはんが変わった 2) 学校保健委員会の進め方 議題の選び方 テーマ「目の健康」→「目に優しい生活」「姿勢を正しく使用」「視力低下を防ごう」など具体的に選ぶ 3)・事例紹介 テーマ(食育) 議題「最近の子どもたちの様子と食育の必要性について」 ・最近気になる子どもたちの様子：学級担任 ・集中力がアップする朝食：栄養士 ・生活リズムと食育について：養護教諭 テーマ(近視の予防) 議題「子どもの視力低下の実態と課題について」 ・本校の視力状況 ・目の健康についての調査 ・子どもたちの声 ・眼科校医さんからのお話し 4)これから開催しようとする学校のために ・印刷資料 「未来へつながる健康づくり」の推進 小中合同学校保健委員会 5)関連する様々な活動とこれからの学校保健委員会活動 ・小中合同学校保健委員会 ・地域学校保健委員会
③質疑応答と資料の紹介
④調査用紙提出(Webclassによる提出依頼)

IV. 結果

12名の学生からの自由記述内容を得た(回収率100%)。得られたデータを分析対象とし、KH Coderを用いて前処理を実行し、文章の単純集計を行った結果123の文が確認された。総抽出語数3380、異なり語数620であった。分析に使用される語として頻出語のうちの上位30語とその出現頻度を表2に示した。

最も多かった抽出語は保護者46であり、ついで学校保健委員会33、子ども22であった。

KH Coderの「共起ネットワーク」のコマンドを用い、自由記述をそれぞれの中で、出現パターンの似かよった語(共起の程度が強い語)を線で結んだネットワークを図1に示した。分析にあたっては、出現数による語の取捨選択に関して最小出現数5に設定し、描写する共起関係の選択は上位60に設定した。強い共起関係ほど濃い線で、出現数の多い語ほど大きい円で描画されている。図1に示した語の共起関係をもとに、特徴的な記述のまとめりと判断したものを項目として立て、学生の記述をく>内の原文のまま抜粋しつつ要約をした。原文の抜粋は、KH CoderのKWICコンコードダンスのコマンドを用い、それぞれの語がどのように用いられているのかを探った。下線を記しているのは、図1に表れている語である。

図1に記載された共起ネットワークは、8つのグループに分かれた。

1. 学校保健委員会の運営

図1の左側では「学校保健委員会」「講義」の語を中心とする記述のまとめりが見て取れる。<今回の講義で学校保健委員会とは何か自分がきちんと理解できていなかったことに気づいた>と自身の学校保健委員会の運営に対する学びを振り返る記述や<講義を受け、学校保健委員会の運営・企画で活用したいと思った>、<学校と家庭や地域が連携した学校保健委員会にしていきたいと強く感じた>の記述があった。

表2 自由記述における頻出語

抽出語	数	抽出語	数	抽出語	数
保護者	46	朝食	14	参加	9
学校保健委員会	33	必要	14	指導	9
子ども	22	自分	12	取り組み	9
活動	20	養護教諭	12	柏田先生	9
健康	20	運営	10	委員	8
学校	19	家庭	10	活用	8
講義	19	興味	10	議題	8
児童生徒	17	保健	10	今回	8
考える	16	意識	9	自身	8
地域	15	学ぶ	9	テーマ	7

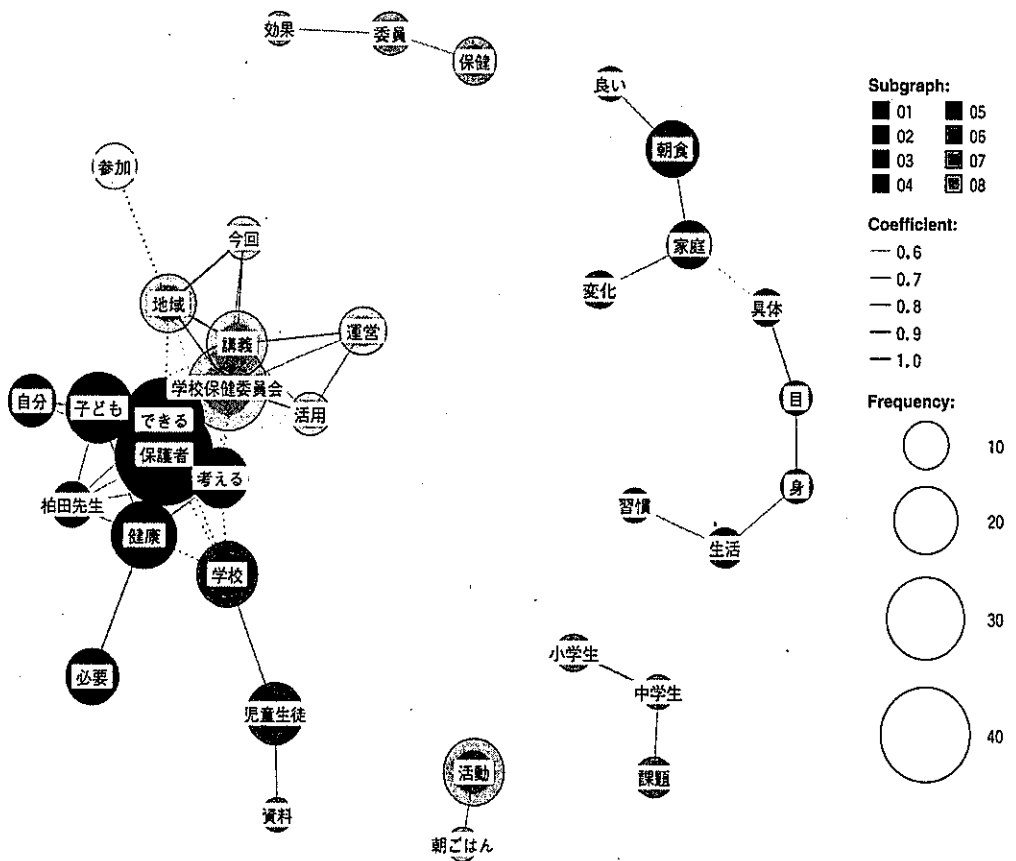


図1 自由記述の共起ネットワーク

2. 子どもの健康に関して保護者とつながる必要性

図1の左側下では、「保護者」「子ども」の語を中心とした記述のまとまりが見て取れる。<事例を聞いて、保護者が子どもに与える影響の大きさを実感した>、<保護者を動かす指導力が必要になると考えた>、<保護者の子どもの健康に関する意識を向上していくことである>、<児童生徒だけでなく保護者の健康問題に対する意識を変化する事が出来るのだと知った>、<児童生徒やその保護者と密接に繋がる必要があると深く感じた>の記述があった。

3. 児童生徒への資料

図1の左側下には「児童生徒」「学校」の語を中心として記述のまとまりがあった。<議題を具体的にすることで児童生徒や学校、地域の実情に合ったものとなり、より身のある討論や学びになる>、<児童生徒が食いつきやすいような資料作りをやってみたい>、<養護教諭として児童生徒や保護者同士がお互いにサポートし合える環境を作っていきたい>、<児童生徒が生涯にわたって自身の健康について考えていけるきっかけとなりうるよう、児童生徒が食いつきやすいような資料作りをやってみたい>の記述があった。

4. 活動に巻き込む手法

図1の下側には「活動」の語を中心として記述のまとまりがあった。<疑問や悩みを児童生徒同士で解決へ繋げていけるのがとてもいい活動だ>、<朝ごはんのイラストを書いてもらったりと、保護者を活動に巻き込んでいくような参加型の企画は新しい手法であり、参考にしていきたい>の記述があった。

5. 小学生、中学生の連携

図1の右側下には「小学生」「中学生」の語を中心として記述のまとまりがあった。<元保健委員会の中学生から、小学生に向けてメッセージをもらって掲示する取り組みはとても

良いなあと思った>、<小学生は、中学校という未知の世界について、純粋な疑問をぶつけることができる>、<卒業生に依頼して中学生が小学生に助言するピア・サポート活動も取り入れていく>、<小学校と中学校が連携して、小学生からの質問に中学生が答える取り組みでは、小学生と中学生の交流の機会になると同時に、疑問や悩みを児童生徒同士で解決へ繋げていけるのがとてもいい活動だと思った>、<先輩からの声を届ける活動は、私が小学生の時に行って欲しかったと思った>などの記述があった。

6. 生活習慣に関する視点

図1の右側には「生活」「習慣」の語を中心として記述のまとまりがあった。<「目に優しい生活」など具体的なテーマを設定するようにしたい>、<目の健康であると、目に優しい生活・目の怪我について・視力低下を防ぐための正しい姿勢など焦点を絞る>などテーマに関する記述と、<より良いものができるように自ら文献を探す習慣を身に付けたい>の記述があった。

7. 具体的な事例紹介

図1の右側上には「朝食」「家庭」の語を中心として記述のまとまりがあった。<講義中にあった朝食の献立については家庭への影響も大きく、実際に自分が養護教諭になり企画発案の場があれば活用したい>、<さまざまな家庭の朝食についてまとめた物もあり、具体的に朝食の献立を考えることができた>、<朝食が学校保健委員会後に変化した事例を聞いて、保護者が子どもに与える影響の大きさを実感した>の記述があった。

8. 取り組みの効果

図1の上側には「保健」「委員」の語を中心として記述のまとまりがあった。<学校保健委員会の内容や取り組んだことの結果などを保健室前に掲示したり保健だよりにしたりして

周知する>、<学校保健委員会がもたらす効果や養護教諭として大切な企画力について学ぶことができた>、<学校保健委員会の活動に委員が興味をもって参加することができるようになるためには、どのような工夫が必要かをよく考えることが重要なのだと考えた>、<多くの保護者にアプローチすると、その分効果も大きくなる>の記述があった。

V. 考察

自由記述からは、学生の学びをとらえることができた。

<今回の講義で学校保健委員会とは何か自分がきちんと理解できていなかったことに気づいた>という学生自身の学校保健委員会の学びに関する記載もあった。この記載は、学校保健委員会がどのような働きをしているのか、どのように運営されているのかといった運営を理解したことにも結び付いていると考えられる。本講義の中では、小学校と中学校の連携も紹介された。小学生からの質問に中学生が答えるといった取り組みの中で、児童生徒同士で悩みや疑問を解決している様子が事例紹介されていた。また、保護者に朝ごはんのイラストを書いてもらい、保護者を活動に巻き込んでいく参加型の企画などもあった。さらに、子どもの健康課題に対して、その課題解決のために栄養教諭、学級担任、養護教諭が連携し、学校保健委員会を開催した結果、子どもたちの朝ごはんが変わった現状も「驚き」として紹介された。このような学校現場で行われている実際の活動の様子と子どもたちや保護者の反応、資料等を通して、学校保健委員会とは「何か」が理解できたのではないかと推察できる。学生が学校現場での学校保健委員会に実際に参加する機会が乏しいことから、このように現職養護教諭から具体的な内容について講義をうける機会に意義があるといえる。

<事例を聞いて、保護者が子どもに与える影響の大きさを実感した>という記述と同時に、<保護者を動かす指導力が必要になると考え

た>という気づきもあった。子どもの生活は保護者に大きく関係している。特に小学生にとってはずきめである。それらのことを紹介された事例を通して理解した上で、児童生徒だけではなく、保護者と密接につながる必要性を受け止めていたといえる。「母が有職であり、共食しておらず、子が家事手伝いをせず、保護者の食意識が低い家庭では、子どもが野菜を食べる心がけがなく、好き嫌いがあり、朝食を欠食し、間食が多いなど子どもの食行動が不良であった」という調査結果⁹⁾もある。また、子どもの睡眠時間と生活習慣を比較した研究においても同様の結果が出ている⁹⁾。これらの結果から、子どもの健康を維持していく際には、保護者も巻き込んで、まず保護者の意識を変えていく必要がある。学校保健委員会の開催により児童生徒だけでなく保護者の健康問題に対する意識を変化する事が出来るのだと知った>ことは、学生の大きな学びであったといえる。

学校保健委員会のテーマに関連する記述があった。<「目に優しい生活」など具体的なテーマを設定するようにしたい>、<目の健康であると、目に優しい生活・目の怪我について・視力低下を防ぐための正しい姿勢など焦点を絞る>などである。「目の健康」と大きなテーマの設定ではあまりにも幅が広く、子どもたちや保護者にとっては提案内容を捉えきれず、何をどのように進めたいのかがわかりにくい。そのため、より具体的なテーマに絞る必要性があることを講師の話から得たものである。子どもたちや保護者にとって、何が健康課題であり、学校保健委員会が何をどのように進めていこうとしているのかがわかるようなテーマの選択の必要性を学んだものといえる。

これらの記述は、<議題を具体的にすることで児童生徒や学校、地域の実情に合ったものとなり、より身のある討論や学びになる>とも関連している。具体的なテーマの設定は、当該校の実情に合ったテーマとなる。そのため、子どもたちや家庭、地域の人々により理解され、同じ討論をしてもより実のある討論に結びつく

ことや学びに結びつくと考えたことを述べたものと考えられる。テーマの設定では、歯・口に関する課題、目に関する課題、生活習慣に関する課題、薬物乱用に関する課題、メンタルヘルスに関する課題³⁾など数多くあげられる。その中のありきたりのテーマではなく、当該校の実情に合ったテーマを選択する重要性を学生は学んだものとする。

<多くの保護者にアプローチすると、その効果も大きくなる>という記述もあった。事例紹介の中に、朝ごはんの重要性を確認してもらうために、各家庭の「簡単うちの朝ごはん」の内容をイラストで保護者に描いてもらう依頼が学校から出されたものがあった。その依頼に対して、保護者から多くの反応があり、様々な家庭の「簡単うちの朝ごはん」のイラストが集まっていた。学校保健委員会では、それらの「簡単うちの朝ごはん」のイラストをパワーポイントにまとめて紹介していた。このように、多くの保護者に近いアプローチすることで、その反応も大きくなり効果が生まれることを学んでいた。

学校保健委員会の活動に学生が直接に参加することが難しい現状から、その学校内部の子どもや保護者とのやり取りの活動はなかなか目に見えてこない。そのため、講義としても難しい点がある。今回のように、学校保健組織活動の一つとして位置づいている学校保健委員会の活動が、現職養護教諭による講義によって、行った内容や保護者からの反応、その後の子どもの変化などを通して紹介される機会は貴重であり、より深く学べることには意義がある。学生が新任養護教諭として勤務校に着任した際には、学校、子ども、家庭、地域が一体的に取り組める状況を作り出し、学校保健委員会の活動に取り組むことが理想である。

VI. 限界と課題

本研究は、1回の講義に対する反応をまとめたものであり、一般化するには限界がある。今後、調査回数、人数を増やして、結果を確認す

る必要がある。

また、質問項目についても「学校保健委員会の運営、企画について、活用していきたいことを記載してください」の1項目の質問だけではなく、「講義の中で一番印象に残ったこと」、「現職養護教諭の講義を受けた感想」、「学校保健委員会の理解度」などの項目も含んで検討することも考えたい。

付記

本研究は、科学研究費基盤研究（C）（17K04851）研究代表者（河田史宝）の一環として執筆された研究成果の一部である。

注釈

注1)

養護教諭特別別科は、看護師国家試験に合格し厚生労働大臣の免許を受けている者、保健師助産師看護師法第21条に定める看護師国家試験の受験資格を有するものあるいは見込みのものを入学資格者として、1年間で教職に関する科目や養護に関する科目を専門的に学び、養護教諭1種免許状を取得させる課程である。

養護教諭は、school nurse と異なる教育職員であり、学校における教育活動をとおして活動を行っていることから、日本学校保健学会、日本養護教諭教育学会の英文表記を採用し、Yogo teacher と示した。

注2)

A 大学では、所属する学生、教職員が、大学内外における情報を取得し、学習、教育などを行うことを目的に Acanthus Portal というシステムが構築されている。そのシステムの1つに Web Class という講義科目のコースがそれぞれの科目に設定されており、講義履修生は Web Class を通して資料の閲覧、課題レポートの提出、アンケート調査の回答等を行うことができる。今回は、そのアンケート調査機能を用いて調査を行った。

引用文献

- 1) 文部省体育局長通達：学校保健法および同法施行等の施行にともなう実施基準について、昭和33年6月16日
- 2) 文部省保健体育審議会答申：生涯にわたる心身の健康の保持増進のための今後の健康に関する教育及びスポーツの振興の在り方について、平成9年9月22日
- 3) 中央教育審議会答申：子どもの心身の健康を守り安全・安心を確保するために学校全体としての取り組みを進めるための方策について、平成20年1月17日
- 4) 公益財団法人日本学校保健会：学校保健委員会マニュアル、平成12年
- 5) 公益財団法人日本学校保健会：平成27年度学校保健委員会に関する調査報告、平成28年、https://www.mext.go.jp/component/a_me
- 6) 樋口耕一：社会的調査のための計量テキスト分析 - 内容分析の継承と発展を目指して-第2版、ナカニシヤ出版（東京）、2020
- 7) 樋口耕一：KH Coder3 最新版ダウンロード、<https://khcoder.net/dl3.html>（令和元年12月28日）
- 8) 中堀伸枝、関根道和、山田正明、立瀬剛志：子どもの食行動・生活習慣・健康と家庭環境との関連：文部科学省スーパー食育スクール事業の結果から、日本公衆衛生雑誌63巻4号、190-201、2016
- 9) 石見百江：保護者の生活習慣が幼児の食生活に及ぼす影響、岐阜市立女子短期大学研究紀要第63輯、31-36、平成26年